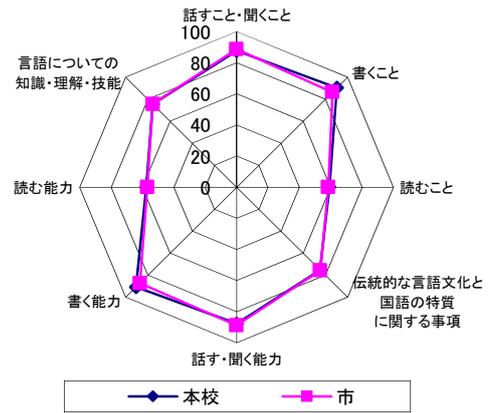


宇都宮市立城山中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	87.6	88.7	89.1
	書くこと	90.4	86.4	64.2
	読むこと	59.0	58.5	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	75.2	75.5	72.0
観点別	話す・聞く能力	87.6	88.7	89.1
	書く能力	90.7	87.1	66.7
	読む能力	57.5	56.9	55.0
	言語についての知識・理解・技能	75.5	75.6	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

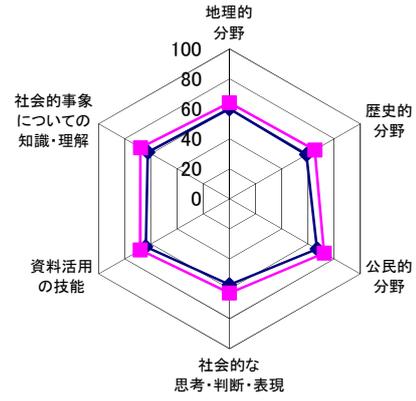
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○根拠を明確にして自分の意見を話すことができるかを問う問題では、全国平均を上回っている。 ●聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることができるかを問う問題では、市、全国の正答率を2ポイント以上下回っている。	・自分の考えを発表したり、話し合いをしたりする際、なぜそう考えるのかの根拠をはっきりさせて話すことを意識づけさせる。 ・授業での発表の際、聞く人に伝わりやすい話し方をしている生徒の話し方の良い点を挙げるなどし、どのように話をすると相手に伝わりやすいのかを学び、積み上げていく。
書くこと	○「書く」領域に関しては、「指定された文字数で書くことができる」、「3段落構成で書くことができる」、「自分の考えを明確に書くことができる」など、どの出題項目においても市や全国平均を大きく上回っている。	・書く領域に関しては、生徒が一番苦手とする領域であったが、要旨をまとめたり、自分の考えや感想を書いたりする活動の結果であると思う。今後も、書く活動の日々の取組みを継続していきたい。
読むこと	○説明文の内容を読み取りでは、文章の内容を捉えたり、要旨を捉えたり、別の事例に当てはめたりする出題の正答率が市や全国の平均を上回っている。 ○文学作品の読み取りでは、登場人物の心情を捉えたり、表現の仕方を捉えたりすることの正答率が市、全国の平均を上回っている。 ●説明文の内容読み取りにおいて、文章の構成や展開をとらえる正答率が市や全国の平均より10ポイント以上下回っている。 ●文学作品の読み取りでは、文章の情景描写を捉えることのできる正答率が、市、全国の平均を下回っている。	・説明文の文章の構成や展開をとらえる授業において、視覚的に理解を深められるよう、板書やプリント作成の工夫に力を入れていきたい。 ・文学作品の情景描写を捉える授業においては、場面ごとに情景描写がされている部分に線を引いたり、その部分をノートに書き出したりするなどし、さらに日常生活に当てはめて考えるなどして理解を深められるようにしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読みの出題では、正答率100%が2問あった。 ○漢字の書きの出題では、漢語の書きが、市、全国の平均を上回っていた。 ●漢字の読みの出題で、4問中2問が市、全国の平均を下回っていた。 ●漢字の書きの出題では、和語の書きが、市や全国の平均を下回っていた。	・分析結果から、生徒の書字力はついてきていると思われる。引き続き、漢字学習ドリルの提出、小テストの実施を行い、漢字の読み書きの修得をさせることに努めていきたい。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	60.1	64.0	50.9
	歴史的分野	58.9	65.3	57.1
	公民的分野	67.0	72.4	67.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	57.3	62.9	52.3
	資料活用 の技能	64.0	68.2	58.1
	社会的 事象についての 知識・理解	62.3	68.0	59.9



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

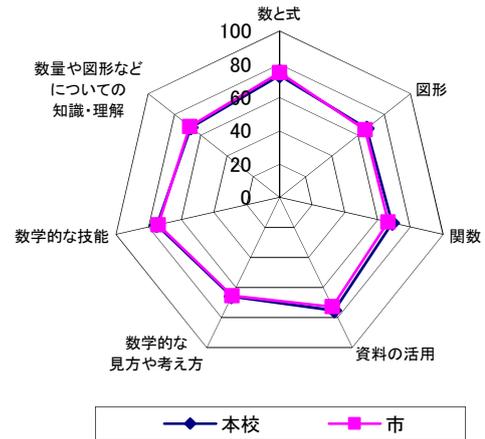
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○日本の領域を問う問題については、正答率が82.2%と高い数値を示している。</p> <p>○エネルギーに関する資料をもとに、環境問題について考察し、その内容を表現する問題については68.9%であり全国正答率を大きく上回っている。</p> <p>●ヨーロッパ州や北アメリカ州など、世界の諸地域の特色を問う問題では、正答率が市の正答率を下回っている。</p>	<p>・世界の諸地域の学習において、生徒の学習への興味・関心を高めるような資料の使用、教材の工夫およびICT等を活用した授業展開を行う。</p> <p>・生徒たちの身近な生活と、世界との結びつきから、それぞれの諸地域の特色を考察させるような学習課題を設定する。</p>
歴史的分野	<p>○室町文化についての問題では、正答率が94.4%と高い数値を示し、全国の正答率を大きく上回っている。</p> <p>○下剋上の風潮についての問題についても、全国の正答率を10.5ポイント上回っている。</p> <p>●天平文化の特色を記述する問題では、正答率が市の正答率を5.7ポイント下回っている。</p>	<p>・記述式の問題については、苦手意識をもっている生徒が多いので、記述の仕方やポイント等をしっかりと指導し、記述を必要とするような学習課題を設定する。</p> <p>・授業のまとめや振り返り等を記述させることで、記述問題への苦手意識をなくしていく。</p>
公民的分野	<p>○フランス人権宣言の内容についての問題では、正答率が91.1%と高い数値を示し、全国の正答率を上回っている。</p> <p>○裁判のしくみの問題についても、90.0%と高い数値を示し、全国および市の正答率を上回っている。</p> <p>●議院内閣制についての問題では、正答率が27.8%で、全国の正答率を18.8ポイント、市の正答率を21.6ポイント下回っている。</p>	<p>・現代の民主政治の分野においては、新聞やインターネットを活用し、今の政治の動きと合わせて理解させるようにしていく。</p> <p>・政治分野においては、単に用語解説にならず、資料や図などを多く用いた授業展開を行い、生徒の学習への興味・関心を高めていく。</p>

宇都宮市立城山中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	73.3	75.0	70.3
	図形	66.7	65.2	63.4
	関数	68.9	66.4	51.5
	資料の活用	75.3	72.8	63.9
観点別	数学的な見方や考え方	66.0	65.5	55.1
	数学的な技能	75.0	74.2	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	67.5	68.3	64.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

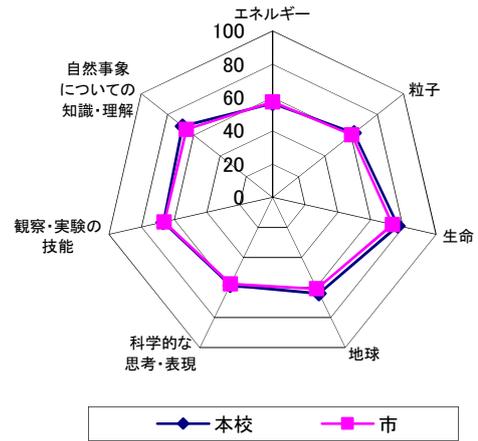
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>○連立方程式を解く問題では、本校の正答率は、市や全国の平均を上回っている。</p> <p>○平方根の問題の正答率では、市の平均を上回っているものが多く、定着していることがうかがえる。</p> <p>●単項式の乗除の計算、平方根の大小については、市や全国の平均を下回っている。</p>	<p>・「数と式」の領域は、数学全般を学習する上で必要不可欠な部分である。計算練習などを繰り返し行い、しっかりと身に付けさせる必要がある。基礎・基本を押さえつつ、応用問題に対応できる力を小テスト形式等を用いて行い、解答・解説を実施する。</p>
図形	<p>○作図する問題については、市や全国の平均を大きく上回っている。</p> <p>○図形の性質と証明の問題では、市の平均を上回っているものが多く、定着していることが分かる。</p> <p>●図形の証明の問題では、正答率が市の平均より7ポイントも下回っている。また、相似な図形の辺の長さを求める問題の正答率が低く、37.8ポイントととても低い。</p>	<p>・証明は、手順を理解し、仮定から結論までの流れがわかるようになる。そのため、初めに合同な図形や相似な図形の探し方を練習させ、そこから、証明の問題を解くことにより証明の楽しさを感じとることができると考える。その時、何が仮定で何が結論なのかをしっかりと確認させたい。プリント学習の時間を、反復練習を行うことで定着を図っていききたい。</p>
関数	<p>○比例の式を求める問題では、市の平均と同じであり、86.7ポイントと高かった。また、変化の割合を求める問題も正答率が市の平均より高かった。</p> <p>●傾きと切片の意味を理解し、選択肢の中から1次関数の式を求める問題では、正答率が市の平均よりも低かった。</p>	<p>・グラフを使って、様々な関数の問題演習を行う。その時いろいろな解き方を考えさせたい。比例・反比例、1次関数、2乗に比例する関数の共通する点と相違な点をまとめ、わかりやすく指導していききたい。</p> <p>複合問題は1つ1つ丁寧に解説することで、理解を高めたい。</p>
資料の活用	<p>○資料の活用の領域で相対度数や確率を求める問題では、8割を超える正答率となっていて、定着がうかがえる。</p> <p>○中央値を求める問題の正答率も市の平均を上回っている。</p>	<p>・相対度数と確率の関係を考えさせながら、授業を進めたい。</p> <p>・日常生活の中で確率の考え方が利用されていることに気付かせ、身近なものとしてとらえさせたい。</p> <p>・やや複雑な確率の問題にも挑戦させたい。その際、正しく場合分けができるようにしたい。</p>

宇都宮市立城山中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	56.5	57.5	51.6
	粒子	62.2	60.3	53.0
	生命	76.7	73.4	67.9
	地球	64.0	60.9	57.4
観点別	科学的な思考・表現	58.4	57.7	51.5
	観察・実験の技能	66.8	66.2	58.2
	自然事象についての知識・理解	68.6	65.7	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

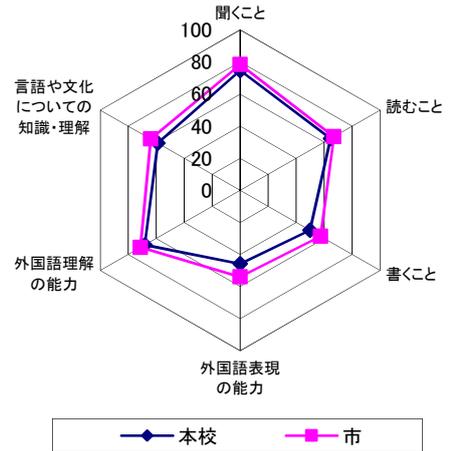
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○仕事とエネルギーの分野では、動滑車を使ったときの力の大きさと、ひもを引いた長さを考えることができています。また、仕事の原理を良く理解できています。</p> <p>●光の性質についての思考力に課題がある。特に、凸レンズの焦点と、できる実像との関係についての考察に大きな課題がある。</p>	<p>・知識・理解を身に付けるにとどまらずに、思考力・表現力を伸ばすための授業を展開していかなければならない。実験や観察を行った結果から何がわかるのか、そこをもっと突き詰めていかなければいけない。考察を文章化したり、口頭で表現したりする学習を多く取り入れたい。</p>
粒子	<p>○質量パーセント濃度を求める式や、ろ過のようすを粒子モデルで考えることが良くできています。また、水の電気分解で発生する気体の性質について良く理解している。</p> <p>●電流を通す水溶液についての理解が不十分である。特に、電解質・イオンの理解が十分になされていない。</p>	<p>・実験や観察で見られる現象には必ず理由があるので、その理由について深く考えさせる必要がある。原因と結果との関係を深く掘り下げて考えさせたい。</p>
生命	<p>○植物のからだのつくりとはたらき、動物の分類についてはとても良くできていて、全国・宇都宮市の平均を大きく上回っている。特に、光合成を行う場所や脊椎動物について理解ができています。</p> <p>●遺伝の分野において、親の交配によってできる子の遺伝子の組み合わせは概ね理解できているが、第2世代の孫の遺伝子の組み合わせについての理解が不十分である。</p>	<p>・植物や動物など、日常生活との結びつきが比較的わかりやすい内容については学習内容の定着がされている。遺伝の仕組みなど、目に見えにくい分野について、シミュレーションやモデル学習などを効果的に取り入れながら授業を行ってほしい。</p>
地球	<p>○火山やマグマの性質について理解が進んでいる。特に、火山岩のでき方についてはとても良く理解されていて、全国・宇都宮市の平均を大きく上回っている。</p> <p>●気温と湿度との関係がよく理解されていない。特に、その関係を飽和水蒸気量と結び付けて考えることができていない。</p>	<p>・目で見ることができるものと、できないものに対する理解度に大きな差が出ている。目で見ることができない事象については、モデルで考えたり、シミュレーションを通して考察を深めていくことが今後の大きな課題である。</p>

宇都宮市立城山中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	74.7	78.4	72.9
	読むこと	64.5	66.9	63.2
	書くこと	49.8	57.5	58.4
観点別	外国語表現の能力	45.9	54.0	51.1
	外国語理解の能力	68.1	71.3	65.9
	言語や文化についての知識・理解	58.9	64.0	68.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○絵の内容を適切に表している英文を答える問題では正答率が高くなっている。</p> <p>●対話の内容を聞き取って適切に应答する力や、英文の要点を聞き取る力がやや不足している。</p>	<p>ALTとの授業では、必然性のあるテーマを設定した上で、生徒との対話をできるだけ増やし、生徒同士でも場面設定などを工夫していきたい。また、生徒にはできるだけ自然な英語を聞く機会を与えとともに、CD教材やDVDを使ったリスニング練習を増やすようにして、今後もリスニングの定着を図るように努めている。</p>
読むこと	<p>○対話の流れと、与えられている表や図から適切な会話を判断することや、スピーチの概要を把握して答えることはできていた。</p> <p>●文法(語句の配置)の理解についてはばらつきが見られた。また、英文の要点を理解し、適切な返答をすることや、対話における相手の意向に適切に応じる力の向上が求められる。</p>	<p>英語の文章の段落ごとに、何を言っているのかを簡単にまとめさせる練習を増やし、その概要や要点をつかむような読み方の指導に力を入れていく。</p> <p>様々な内容の長文を読む機会を増やすなどして、長文に対する苦手意識をなくすようにしていきたい。"that"や"it"が指す内容を正確に答えられる力も更に身につけさせる。</p>
書くこと	<p>○疑問詞の用法をしっかりと理解していた。</p> <p>●「自分の好きなこと」について、つながりのある3文以上の英語で書く問題では、「3文目」を書けていない生徒が見られた。</p> <p>●英文を正しい語順で書いたり、対話の前後から判断して流れにあった英文を書くことが難しいようである。</p>	<p>日頃より単語の練習に力を入れ、反復練習によって正しいスペリングを覚えるようにさせる。また既習の文型を使っての英作文などを実施して、基本文の定着を図るようにする。</p> <p>自分自身のことや時事、与えられたテーマについて賛成か反対かを明確にして意見を述べることなど、英語で表現する力を身に付けさせる。</p>

宇都宮市立城山中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えを書いてまとめる活動を始めとする思考力・判断力・表現力の育成	授業の中で、「ホワイトボードを活用したり、ワークシートの記入の仕方などを工夫して自分の考えをまとめ、全体の前で発表する機会を設定する。	「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる」に肯定的に回答した生徒の割合は、1年生が66.3%、2年生が58.9%、3年生が78.5%と学年が上がるにつれて上昇している。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「宿題プラスワン」を地域学校園での合言葉とし、小学校からの継続的な取り組みとして行っている。自主的な家庭学習を習慣化させるようにする。	「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」に肯定的に回答した生徒の割合は、1年生が60.7%、2年生が53.3%、3年生が75.3%と昨年に比べて上昇している。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・3年生の授業への取り組みについては、ほとんどの項目で市の平均を上回っている。ただし、グループなどでの話し合いに関してはやや消極的な様子が見られる。次年度も継続して、ホワイトボードやワークシートなどに自分の考えをまとめ、自信をもって自分の考えをみんなに伝えられる指導を充実させていきたい。

・「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」という項目に肯定的に回答した割合は2年生の学習時間が昨年度よりも増えてはいるが、全体的にはまだまだ低いものがある。次年度も地域学校園でも声かけを行い、家庭学習の習慣化と自主的に学習に取り組む姿勢を指導を充実させていきたい。